

# 平成16年度 定期作況報告

( 9月20日現在)

北海道立中央農業試験場

# 水稻の部

水田農業科 (岩見沢市)

## 気象概況

8月下旬：平均気温は平年より3.0 低く、降水量は平年の58%、日照時間は平年の135%で、低温・少雨・多照に経過した。

9月上旬：平均気温は平年より0.2 低く、降水量は平年の14%、日照時間は平年の75%で、少雨・寡照に経過した。また9月8日に台風18号による暴風害を受けた。

9月中旬：平均気温は平年より0.7 低く、降水量は平年の169%、日照時間は平年の125%で、多照に経過した。

以上、1ヶ月を通じ平均気温は平年より1.3 低く、降水量は平年比82%、日照時間は平年比111%であり、低温・多照に経過した。

8月下旬～9月中旬気象表

項目	8月下旬			9月上旬			9月中旬			平均(合計)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温( )	23.1	25.1	2.0	23.7	23.5	0.2	22.1	21.4	0.7	23.0	23.3	0.3
最低気温( )	13.3	17.3	4.0	14.5	15.1	0.6	11.3	13.5	2.2	13.0	15.3	2.3
平均気温( )	18.2	21.2	3.0	19.1	19.3	0.2	16.7	17.4	0.7	18.0	19.3	1.3
降水量(mm)	36.0	62.1	26.1	6.0	44.1	38.1	88.0	52.0	36.0	130.0	158.2	28.2
日照時間(hr)	73.3	54.1	19.2	41.5	55.2	13.7	56.2	44.8	11.4	171.0	154.1	16.9

注) データは「アメダス岩見沢」を使用。平年値は平成6年～15年10ヶ年平均値を農試が算出し使用。

最高、最低、平均気温は期間内の平均値、降水量、日照時間は期間内の積算値を用いた。

## 作 況

水稻 作況：やや良

事由：8月下旬は日照時間は長かったものの気温の低下が大きく、登熟はやや停滞した。

9月上旬から気温は平年並かやや低く推移した。9月8日に台風18号の暴風により「きらら397」、「ほしのゆめ」それぞれ1㎡あたり666粒、529粒(㎡当たり籾数の2%程度)が脱粒した。また止葉を中心に葉身が枯れ上がり、登熟はさらに停滞した。

成熟期は「きらら397」で9月16日、「ほしのゆめ」で9月12日で、平年と比べてそれぞれ4日、6日早かった。一穂籾数は両品種とも平年よりやや多く、㎡当たり籾数は両品種とも平年より多く、稔実歩合は平年より高かった。

以上により、現在の作況はやや良である。

品種名	成熟期(月.日)			登熟日数		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きらら397	9.16	9.20	4	47	49	2
ほしのゆめ	9.12	9.18	6	45	49	4

品種名	一穂籾数(粒)			㎡当たり籾数(百粒)			稔実歩合(%)			脱粒数 (粒/㎡)
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
きらら397	51.6	50.2	1.4	361	308	53	94.2	86.0	8.2	666
ほしのゆめ	48.9	46.6	2.3	371	303	68	93.4	89.3	4.1	529

注1)一穂籾数、㎡当たり籾数、稔実歩合は暫定値

注2)脱粒の調査日は9月10日、一穂籾数および稔実歩合の調査は9月17日

注3)平年値は前7ヶ年中、平成10年(最豊)、15年(最凶)を除く5ヶ年平均

注4)平成14年より従来の泥炭土圃場から奨励品種決定調査圃場であるグライ土圃場に移した。

注5)耕種概要

土 壤 細粒グライ土  
 施 肥 高度化成472全層施肥 N - P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> - K<sub>2</sub>O=8.0-9.7-6.9 kg/10a 堆肥1,500kg/10a  
 播 種 量 :中苗紙筒 = 180cc/箱  
 栽 植 密 度 :30 × 13.3cm 25株/㎡ 4本植え  
 移 植 方 法 :手植え  
 反 復 :2

# 畑作の部

畑作科 (長沼町)

## 気象概況

8月下旬：気温は前期に引き続き低く推移し、降水量は少なく、日照時間は多かった。31日に台風16号が北海道を縦断し、強風にみまわれた。

9月上旬：気温は最高気温がやや高く、最低気温がやや低く推移し、平均気温ではほぼ平年並に回復した。降水量は少なかった。日照時間は平年並であった。8日に台風18号が接近し、場内マメダスでは9時19分頃に最大瞬間風速35.9m/sの強風にみまわれた。

9月中旬：気温は前期と同様に、最高気温がやや高く、最低気温がやや低く推移し、平均気温では平年並であった。降水量および日照時間もほぼ平年並であった。

以上、1ヶ月を通じてみると、気温は8月下旬の低温によりやや低く、降水量は少なく、日照時間は多かった。

8月下旬～9月中旬気象表

項目	8月下旬			9月上旬			9月中旬			平均(合計)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
平均気温 (℃)	18.4	20.4	2.0	19.4	19.2	0.2	17.1	17.1	0.0	18.3	18.9	0.6
最高気温 (℃)	23.4	24.4	1.0	24.3	23.6	0.7	22.2	21.4	0.8	23.3	23.1	0.2
最低気温 (℃)	13.6	17.2	3.6	14.8	15.3	0.5	11.8	12.9	1.1	13.4	15.1	1.7
降水量 (mm)	20.0	58.1	38.1	7.5	38.6	31.1	56.5	48.6	7.9	84.0	145.3	61.3
降水日数 (日)	3.0	4.5	1.5	1.0	4.5	3.5	4.0	3.8	0.2	8.0	12.8	4.8
日照時間 (hr)	70.8	44.5	26.3	54.0	53.0	1.0	48.8	43.6	5.2	173.6	141.1	32.5

注1) データは「アメダス長沼」を使用。平年値は平成6年～15年の確定値を10年間農試で平均し、本年値は平成16年の速報値を用いた。

注2) 最高、最低、平均気温は期間内の平均値、降水量、降水日数、日照時間は期間内の積算値を用いた。

## 作況

### 1. 秋まき小麦(平成16年播種) 作況：良

事由：播種期は平年に比べ3日早い9月10日に行なった。播種後は降雨があり、気温も平年並であったことから出芽は早く、出芽期は平年に比べ6日早い9月15日であった。

以上により、現在の作況は良である。

品種名	播種期(月.日)			出芽期(月.日)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ホクシン	9.10	9.13	3	9.15	9.21	6
ホロシリコムギ	9.10	9.13	3	9.15	9.21	6

注)平年値は前7か年中、平成9年(最凶)、15年(最豊)を除く5か年平均(各収穫年度)。

### 2. 大豆 作況：良

事由：前期に引き続き生育は順調である。台風18号の強風により葉落ちが進んだが、倒伏等の被害は少なかった。平年に比較し、主茎長はやや長く、主茎節数は少なく、分枝数は平年並である。着莢数は、中生の「ツルムスメ」が平年を約27%上回り、晩生の「ユウヅル」が平年並であった。なお、登熟は、順調で平年より早くに進んでいる。

以上により、現在の作況は良である。

品種名	主茎長(cm)			主茎節数(節)			分枝数(本/株)			着莢数(莢/株)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ツルムスメ	59.8	56.0	3.8	12.1	12.7	0.6	6.4	6.5	0.1	66.5	52.1	14.4
ユウヅル	80.8	77.5	3.3	14.6	15.6	1.0	5.2	5.1	0.1	58.6	58.4	0.2
トヨスメ(参考)	63.3	61.6	1.7	10.1	10.1	0.0	8.0	5.9	2.1	87.4	63.7	23.7
スズマル(参考)	66.7	78.8	12.1	14.2	14.7	0.5	10.9	10.6	0.3	147.9	120.4	27.5

注)平年値は前7か年中、平成12年(最豊)、14年(最凶)を除く5か年平均。

ただし、トヨスメ、スズマルは、前3か年の平均を平年とし参考値を示す。

### 3. 小豆 作況：良

事由：開花期以降の高温により登熟は進行したが、8月中下旬低温に推移したため、成熟期は平年並の9月8日であった。主茎長、主茎節数、および分枝数はともに平年を大きく上回った。着莢数は平年に比べかなり多かった。一方、一莢内粒数は平年に比べやや少なかった。

以上により、現在の作況は良である。

品種名	成熟期(月日)			主茎長(cm)			主茎節数(節)			分枝数(本/株)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
エリシヨウスズ	9.08	9.08	0	69.0	50.4	18.6	13.9	11.8	2.1	4.5	3.2	1.3

品種名	着莢数(莢/株)			一莢内粒数(粒)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
エリシヨウスズ	56.6	42.3	14.3	6.41	6.68	0.27

注)平年値は前7か年中、平成12年(最凶)、15年(最豊)を除く5か年平均。

### 4. ばれいしょ 作況：良

事由：生育期間を通しての気象は、概ね高温・多照・乾燥気味で経過した。このため、生育は平年より進み、茎葉の黄変が平年より1週間程度早い7月下旬から始まった。この早期の茎葉黄変と高温のため、塊茎肥大とでん粉蓄積は緩慢であった。枯凋期はほぼ平年並みの8月21日で、上いも数は平年比131%と平年より多く、上いも1個重は平年比90%とやや小粒であった。このため、上いも重は4,666kg/10aで平年比118%、中以上いも重も3,485kg/10aで平年比111%と平年を上回った。また、でん粉価は15.1%とほぼ平年並みであった。

以上により、今年の作況は良である。

品種名	枯凋期(月.日)			上いも数(個/株)			上いも一個重(g)			でん粉価(%)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
男爵薯	8.21	8.20	1	15.1	11.5	3.6	70	78	8	15.1	14.8	0.3

品種名	上いも重(kg/10a)				中以上いも重(kg/10a)			
	本年	平年	比較	平年対比(%)	本年	平年	比較	平年対比(%)
男爵薯	4,666	3,940	726	118	3,485	3,132	353	111

注)平年値は前7か年中、平成11年(最凶)、13年(最豊)を除く5か年平均。

「上いも」は21g以上、「中以上いも」は61g以上のいもである。

## 5. てんさい 作況：やや良

事由：今期前半まで、平年をかなり上回る順調な生育で経過してきたが、9月8日の台風により著しい葉傷みが生じ、茎葉部の黒褐変が目立っている。9月20日現在、草丈は平年比104%、葉数は平年比116%、根周は平年比107%と平年を上回る生育を示しているが、地上部生育および根部肥大の増加はやや緩慢となっている。さらに、地上部黒褐変障害程度の著しい個体では二次生長がみられること並びに褐斑病の蔓延が目立ち始めたことなどから、今後、根中糖分の低下が懸念される。

以上により、現在の作況はやや良である。

栽培法	品種名	草丈(cm)			葉数(枚)			根周(cm)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
移植	モノホマレ	63.7	61.2	2.5	34.5	29.8	4.7	36.5	34.2	2.3

注)平年値は前7か年中、平成12年(最凶)、15年(最豊)を除く5か年平均。

## 6. 中央農試作況報告について

平成13年度より、すべての作物で土壌物理性・排水性が改良された基盤整備後の圃場を使用している。

当報告は、中央農業試験場のほ場において行った生育調査について、調査時点における値を中央農業試験場の平年値と比較したものであり、当該管内の作況を代表するものではありません。